

|    |                |
|----|----------------|
| 公表 | 事業所における自己評価総括表 |
|----|----------------|

|                |                          |    |        |    |
|----------------|--------------------------|----|--------|----|
| ○事業所名          | おはなのいえ宮小路                |    |        |    |
| ○保護者評価実施期間     | 令和7年 4月 1日 ～ 令和7年 4月 18日 |    |        |    |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                   | 16 | (回答者数) | 16 |
| ○従業者評価実施期間     | 令和7年 4月 1日 ～ 令和7年 4月 10日 |    |        |    |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                   | 6  | (回答者数) | 6  |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和7年 5月 19日              |    |        |    |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※) だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等                                                                                                                    | さらに充実を図るための取組等                                                                                                            |
|---|---------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 子どものニーズ、保護者のニーズや課題を充分な理解し個別支援計画書を作成されている。   | ・活動や環境設定に工夫を凝らし、「やってみたい」と子どもが感じてくれるよう声掛けしながら、支援者と一緒に取り組んでいます。<br>・ご自身の靴下やハンカチ、上着を畳むなどの活動を行い「できた」という達成感を味わえるよう成功体験を積み重ね                   | ・職員間で情報共有を密にし、子どもたちの取り組み状況や成長を定期的に振り返る機会を設けています。また、保護者との連携も重視しており、家庭での様子や希望を伺いながら、一貫性のある支援を目指しています。                       |
| 2 | 活動プログラムが固定化されにように工夫してある。                    | ・一人ひとりの特性や発達段階に応じた課題設定を行い、無理のないペースで取り組んでいます。活動自体が楽しみになるよう遊びの要素を取り入れるなどの工夫もしています。<br>また、「できた」「わかった」という成功体験を大切に、自信につながる声かけや支援を意識的に行っています。  | ・定期的に支援内容の見直しやケース会議を実施し、子どもたちの成長や変化に柔軟に対応できる体制を整えています。<br>また、保護者との連携を大切に、家庭での様子や支援に対する要望を丁寧にヒヤリングすることで、一貫性のある支援へとつなげています。 |
| 3 | 家庭に近い環境の設定で、般化しやすい。                         | ・子どもたちが自然と生活習慣や社会的マナーを身に付けられるように声かけや環境設定に工夫を凝らしています。たとえば、片付けの際に「どこに戻すか」一目でわかるような整理整頓の工夫を行い、成功体験に繋がっています。また、公共の場に出かける機会を設け、ルールやマナーを実際の行動の | ・支援の質をさらに高めるために、子ども一人一人の成長に合わせた目標設定と、その達成度の振り返りを継続的にを行っています。<br>・ご家庭での課題や希望を丁寧に伺いながら、支援内容に反映させるよう努めています。                  |

|   | 事業所の弱み(※) だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等                                                                     | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                                                                     |
|---|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 保育園や認定こども園との交流やその他地域で他の子どもと活動する機会が少ない。      | 児童発達支援のサービス提供時間や、日頃幼稚園や保育園に通う児童がほとんどであり、全くの交流ができないこともないが、今の個々の現状を考慮すると必ずしも必要ではないと感じる。 | できる限りの、外出や公園遊び等を通して地域の方々と触れ合う機会を提供してまいります。                                                               |
| 2 | 父母の会や、きょうだい同士の支援についてわからないところがある。            | 父母の会においては、主に月に一回の保護者会からの広がりを目指しているが、大勢の集まりはなかなか実現できない。                                | きょうだい同士の関りにおいても積極的には行っておりませんが、ぜひ保護者会においてその機会を多く活用して欲しいと思っております。                                          |
| 3 | 定期的な通信やホームページ、SNSの活用が少ない。                   | 支援中には、ゆっくり投稿が難しい。また、防犯の観点から居場所特定等の考慮を行うが故に発信が遅れてしまう。また、遠慮してしまいがちになっている。               | 主にInstagramを使用しています。今後の投稿は様々な面への配慮を職員一同で考えながら非違の様子をSNSで発信していきます。なおHPはたまかな情報だけです。日々の発信はInstagramでご確認ください。 |